神戸市文化芸術推進ビジョン
（概要版）

神戸市

令和３年１月

神戸市文化芸術推進ビジョンの策定にあたって

神戸は 26 年前、阪神・淡路大震災を経験しました。

あの日、人々は自分の「できること」を持ち寄り、互いに扶け合い、励まし合いながら、困難な時期を共に乗り越えました。一人ひとりの自助努力、自立の精神は震災の中から生まれた大きな財産であり、まさに神戸のオリジンと言えます。

日本は人口減少社会に突入しています。「誰かがやってくれる」のを待っているだけでは、今後、神戸が日本の中で選ばれる都市として生き残っていくことは難しいでしょう。個人や団体といった違いや、年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず、「私はこれができる」「私はこれがしたい」といった一人ひとりの自発的なムーブメントこそが、神戸を面白くし魅力あるまちにする原動力です。

神戸は、明治の開港以来、常に海外からの多彩な文化や新しい気風を取り入れながら、個性豊かな発展を遂げてきました。新しい「令和」の時代にも、先人が築き上げてきた歴史や営みを受け継ぎながら、海と山、美しい街並み、田園風景、そこに暮らす人々など、神戸が持つ多様な資産を最大限活かし、まちの質・くらしの質を向上させていかなければなりません。

2020 年、新型コロナウイルスの出現により、世界中の風景は一変しました。文化芸術活動も例外ではなく、新しい生活様式への対応が求められる中、様々な活動が制限されるなど、大きな影響が及んでいます。しかし、新しい生活様式は、デジタルでの動画配信などいずれ迎える時代を先取りしたものになっているものもあります。このような「with コロナ時代」においても文化芸術の灯を絶やしてはなりません。変化に柔軟に対応し、文化芸術活動を維持・継続していくことは、ポスト・コロナの私たちの豊かな生活を守ることにもつながります。

「自発性」と「多様性」、そして「柔軟性」を起点に置き、前向きな市民活動を行政や企業が全力で応援する。30 年後の神戸のために、これからの 10 年、神戸に住み、働き、集うすべての人々が、それぞれに自らできること実践していくため、この文化芸術推進ビジョンを策定します。

最後になりましたが、本ビジョンの策定にあたり、熱心にご議論いただいた「神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会」委員の皆様、そしてアンケート調査等で貴重なご意見をいただいた市民の皆様に心から感謝を申し上げます。

ひさもと　　きぞう

神戸市長　　久元喜造

神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会　会長メッセージ

KOBE2050

～30 年後の未来のために、これから 10 年で目指すこと～

テクノロジーの急速な発展は私達の生活のどこを変えてどこを変えないのでしょうか？きっと自動運転は当たり前になっているはずですし、紙幣や硬貨は博物館で観るものになっているでしょう。神戸は水素エネルギーのスマートシティーになり、宇宙の衛星軌道上にはエネルギー施設がいくつも並んでいるかもしれません。ひとつ確かな事は、温暖化によって気候変動はより深刻になり、ひょっとすると南海トラフの地震が起こっているかもしれません。奇しくも今回の新型コロナウイルス問題は、日本がデジタル社会で後発かつ脆弱であることを明らかにしました。しかし、この問題を克服すれば、例えば神戸ではオンライン環境が、海と山と豊かな自然というオフラインを包み込む、新しい豊かさを体現するチャンスが訪れると私は考えます。そのような 2050 年の文化はどんな姿をしているのでしょう。

30 年前に現代の暮らしを想像することは難しかったように、今から 30 年後の未来を想像することは困難です。人々は AR（※１）や VR(※２)でしか情報を入力しなくなっているのかもしれませんし、情報は脳に直接入力されているかもしれません。しかし確かな事があります。そんな時代になっても私達の体はまったく今と変わらず、美味しい神戸ビーフや瀬戸内海の魚に舌鼓を打つ生活を楽しむでしょうし、筋肉はすぐに衰えるのでジムでトレーニングをしなければならず、週末のアウトドアライフを楽しむ人々は今より増えているかもしれません。いかにテクノロジーが進化しても、神戸ビーフ味の宇宙食を誰も食べたいとは思わないはずなのです。

この懇話会では、今から約 30 年後の「西暦 2050 年」という先の未来を見据え、挑戦する若者たちの文化スタートアップを支援する事を大きな目標に掲げました。実験性を尊び、まだ見えない何かに向かって文化の概念を再構築する野望を持った若者に集まってもらおうではありませんか。

行政・企業・市民が一丸となって「やる気のある人」を応援するまち KOBE。世界中から若いチャレンジャーが数多く集うまち KOBE。そんな 30 年後の KOBE の実現のため、まずこれから 10 年、神戸に住み、働き、集うすべての人々が自らできることを考え実践し、共に歩むための指針として、この文化芸術推進ビジョンが広く共有されることを願ってやみません。

※１　Augmented Reality　拡張現実　　※２　Virtual Reality（仮想現実）

神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会

会長　椿（つばき）　昇（のぼる）

目 次

Ⅰ　神戸市文化芸術推進ビジョンについて ……1
１．策定趣旨 ……1

Ⅱ　策定の背景 ……2
１．国の動き ……2
２．神戸市を取り巻く現状と課題 ……4
（１）阪神・淡路大震災からの復興に充てた四半世紀 ……4
（２）人口減少・超高齢社会の進展 ……4
（３）大型国際スポーツイベント等の開催 ……6
（４）情報通信技術の急速な発展 ……6
（５）新型コロナウイルスの出現と感染拡大……6

Ⅲ　ビジョンの位置づけ ……7
１．市の計画 ……7
２．これまでの取り組み ……7
３．ビジョンの位置づけ ……8
４．ビジョンの期間 ……8

Ⅳ　基本方針 ……9
将来像１　暮らしを彩る ……9
将来像２　次世代を育てる ……10
将来像３　変化を楽しむ ……11
将来像４　自然を活かす ……12
将来像５　豊かに繋がる ……13

Ⅰ　神戸市文化芸術推進ビジョンについて

１．策定趣旨

阪神・淡路大震災から 26 年目を迎えた神戸は、これまで築き上げてきた歴史や営みを受け継ぎながら新たなステージに立っています。しかしながら、社会経済情勢の急速な変化、グローバル化、情報化社会の進展、そして新型コロナウイルスの感染拡大などにより、人々の価値観や生活は大きく変化しています。また、都心三宮をはじめ、市内各地域の駅周辺のリノベーションにより街も大きく変わろうとしています。

このような中、神戸が、これからも魅力的で、持続可能な都市として発展していくためには、市民が日常的に芸術・文化に触れることができ、神戸の街での生活を楽しむことが重要です。また、その魅力を国内外に発信し、世界中の人々が神戸に集うことで、地域や暮らしの中で世界の文化と交流し、多様な価値観を認め合うことができます。このような神戸を創るため、文化芸術によるまちづくりを進めていかなければなりません。

神戸には、古来より開かれた港のある雄大な海と自然豊かな六甲山麓があり、それらに囲まれた市街地では、海や山の恵みなどにより地域ごとの文化資産があります。六甲山麓の北側には、自然に囲まれた豊かな農村地域も広がっています。また、旧居留地や異人館、茅葺民家をはじめ歴史的資産も多く残っています。そして神戸にかかわる人々。これら神戸が持つあらゆる資産を最大限活かして、30 年後の神戸のために、これからの 10 年、神戸に住み、働き、集うすべての人々が自らできることを考えるために、この文化芸術推進ビジョンを策定します。

Ⅱ　策定の背景

１．国の動き

（１）文化芸術基本法

平成 29（2017）年６月、国は文化芸術振興基本法の一部を改正し、法律名を「文化芸術基本法」に改めました。

今回の改正は、少子高齢化・グローバル化の進展など社会の状況が著しく変化する中で、観光やまちづくり、国際交流等幅広い関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術政策の展開が、より一層求められるようになってきたことを背景に、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を法の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとする趣旨の元、行われたものです。

同法の規定により、国は文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「文化芸術推進基本計画」を策定しました。

また、同法では国の基本計画を参考にしながら、地方公共団体にも各地の実情に応じた「地方文化芸術推進基本計画」を策定する努力義務を規定しています。

参 考　文化芸術基本法　第７条の２　（抜粋）

都道府県及び市（特別区を含む。第三十七条において同じ。）町村の教育委員会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和三十一年法律第百六十二号）第二十三条第一項の条例の定めるところによりその長が文化に関する事務（文化財の保護に関する事務を除く。）を管理し、及び執行することとされた地方公共団体（次項において「特定地方公共団体」という。）にあっては、その長）は、文化芸術推進基本計画を参酌して、その地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画（次項及び第三十七条において「地方文化芸術推進基本計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

（２）障害者による文化芸術活動の推進に関する法律

平成30（2018）年６月、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（平成30年法律第47号）」が公布、施行されました。

この法律は、文化芸術基本法及び障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害者による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることを目的とするものです。

同法の規定により、国は「障害者文化芸術活動推進基本計画」を策定しました。

また、同法では国の基本計画を参考にしながら、地方公共団体にも各地の実情に応じた「地方障害者文化芸術活動推進基本計画」を策定する努力義務を規定しています。

参 考　障害者による文化芸術活動の推進に関する法律　第８条

地方公共団体は、基本計画を勘案して、当該地方公共団体における障害者による文化芸術活動の推進に関する計画を定めるよう努めなければならない。

２　地方公共団体は、前項の計画を定め、又はこれを変更したときは、遅滞なく、これを公表するよう努めるものとする。

２．神戸市を取り巻く現状と課題

（１）阪神・淡路大震災からの復興に充てた四半世紀

阪神・淡路大震災から26年、神戸は復興に至る過程で被災された方々の日常生活や財政再建への対応を優先する必要がありました。このため、新たな政策課題への対応や非日常性の創出に手をつける余裕がなく、相対的に都市としての魅力が低下したことは否めません。

令和２（2020）年から本格化した三宮の再整備やターミナル駅前空間リノベーションに合わせて、新神戸文化ホールを始め、新たな文化芸術創造発信拠点も整備されます。この新拠点を活かしてまちの賑わいを創出するとともに、まちなかに「わくわく感」や「非日常性」を生み出し、質の高い暮らしを体感できるまち、「選ばれるまち」として都市の魅力をさらに高めていく必要があります。

（２）人口減少・超高齢社会の進展

神戸市の人口は、令和２（2020） 年10月1日時点で、151万6,638人となりました。総人口は平成24（2012）年に減少に転じて以来、年々減少しており、高齢化も進んでいます。

また、令和元（2019）年度中の人口動態は、4,366 人減少（自然増減 5,645 人減少、社会増減 1,279 人増加）となり、人口減少数が全国で３番目に大きい減少幅となりました。

人口減少とそれに伴う高齢化は、地域コミュニティの衰退やまちの活力低下など、市民の暮らしを支える地域の社会・経済システムの維持・存続に大きな負の影響を及ぼす可能性があります。文化芸術の分野でも、担い手や支え手、後継者不足や、歴史ある伝統文化財・行事の消失の問題点が指摘されています。

神戸市がこれからも豊かな多様性を保ち、持続可能な都市であるためには、全ての市民が年を重ねても安心して暮らしたいと思えるまちである必要があります。そのためには、若者に選ばれるまちとして次世代の担い手・支え手を増やすとともに、人々の生きがい創出や健康寿命の延伸等に文化芸術の力を積極的に活かしていく必要があります。

参 考　神戸市ネットモニターアンケート　集計結果

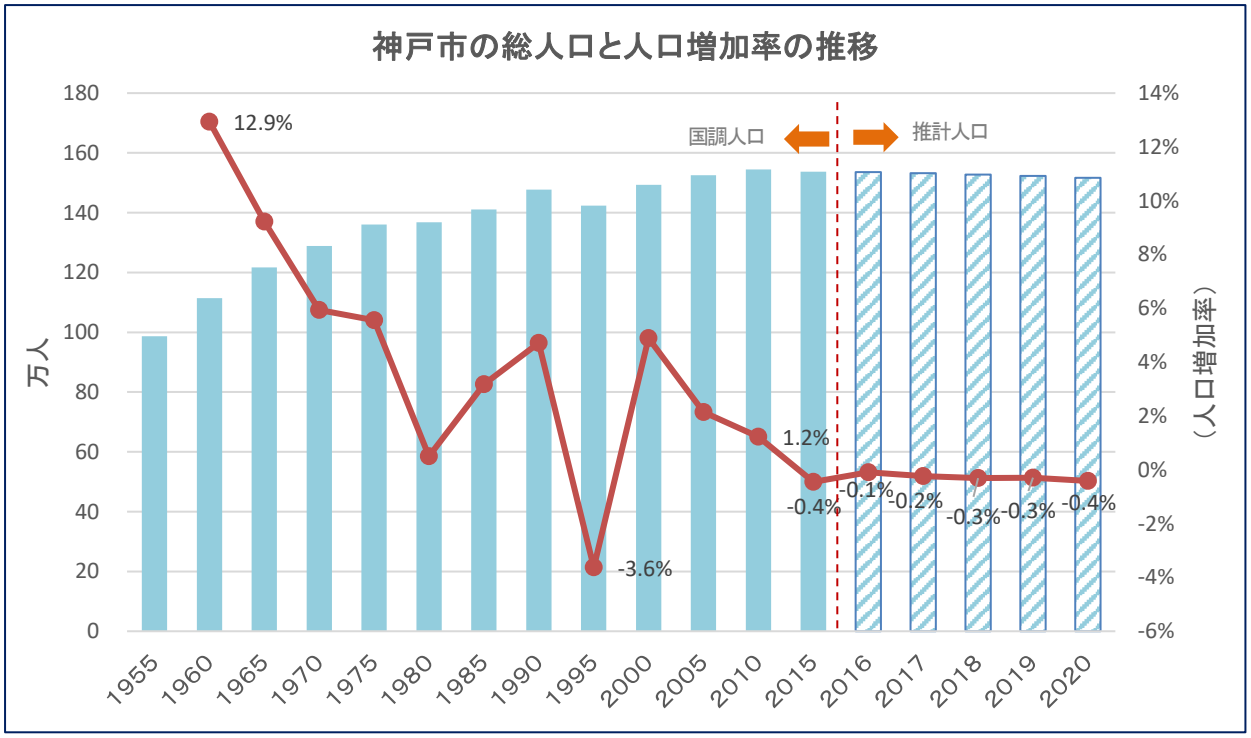
問６．神戸の文化的な環境が良くなることにより、どのような効果が現れることを期待しますか。（複数回答可）

１位　市民が生きがいや楽しみを見いだせる（56.9%）

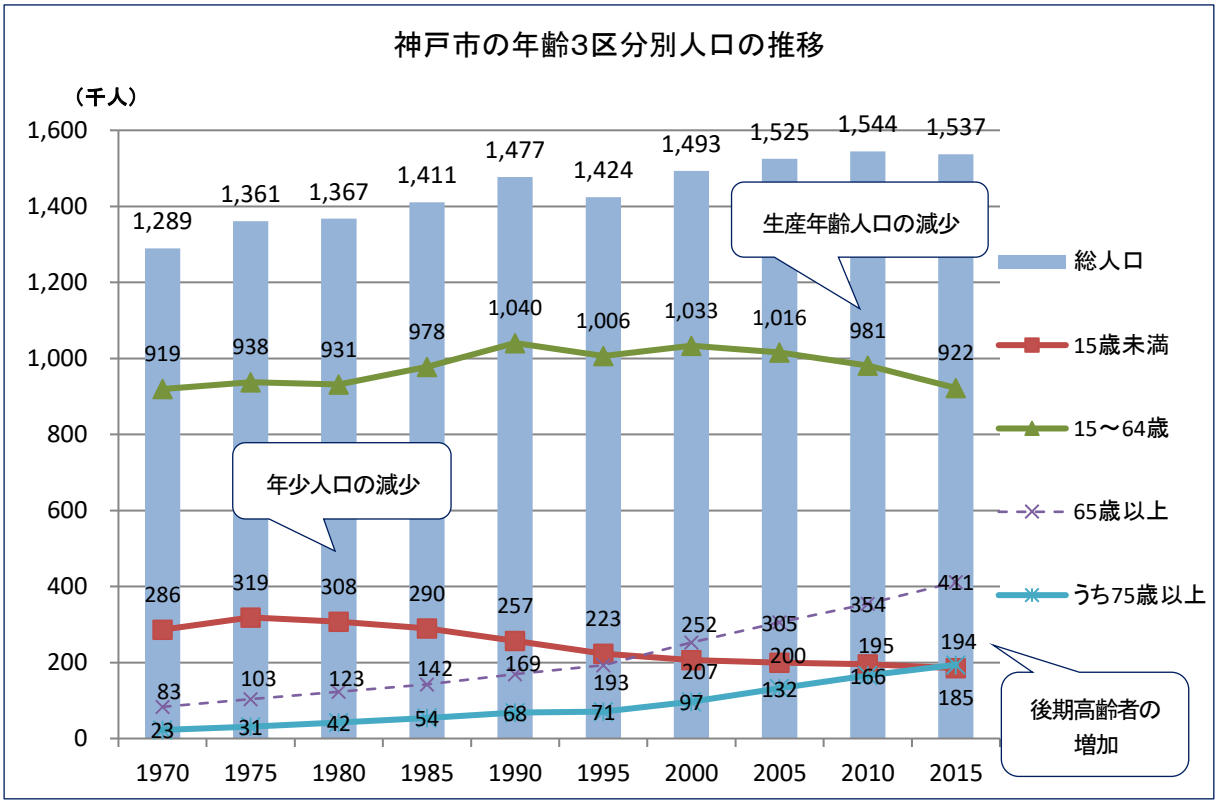
２位　こどもが心豊かに成長する（52.2%）

問８．自由意見（抜粋）

・芸術文化を生かして認知症予防や健康維持につなげてほしい。



出典：国勢調査（2015 年まで）・神戸市推計人口（2015 年以降各年 10 月 1 日現在）



出典：国勢調査

（３）大型国際スポーツイベント等の開催

令和３（2021）年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。東京オリンピック・パラリンピック競技大会はスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあり、同大会は我が国の文化芸術の価値を世界に発信する大きな機会となります。

さらに、令和４（2022）年には世界パラ陸上競技選手権大会、ワールドマスターズゲームズ2021 関西大会、令和７（2025）年には大阪・関西万博が開催されるなど大型の国際イベントが続くことから、神戸にも注目が集まることで、世界に対しても神戸の取り組みをアピールする機会が生まれます。

（４）情報通信技術の急速な発展

情報通信技術の急速な発展と普及は、情報の受信・発信を容易にし、私たちの生活に大きな利便性をもたらしました。また、映像や動画などデジタル技術の発達は、多様な文化芸術活動の展開や創造を可能にするものとして期待されています。

これまでは、民放テレビ局を始めマスメディアが集中する大阪と比較すると、神戸市における情報発信機会の少なさは否定できませんでした。これからは、自らが発信源となり、より多くの人たちに神戸の魅力や取り組みを伝えられるよう、世代ごとに適切で効果的な情報発信方法を考える必要があります。

参 考　神戸市ネットモニターアンケート　集計結果

問３　芸術文化活動を鑑賞したり始めたりする情報やきっかけをどこから得ましたか。

１位　ニュースや新聞をみて（48.4%）

２位　インターネットを利用していて（YouTube・ブログなど）　（36.1%）

問８．自由意見（抜粋）

・広報が悪い気がする。せっかく良いイベントを開催していても知らなかったという事が多々ある。

（５）新型コロナウイルスの出現と感染拡大

令和２（2020）年、新型コロナウイルスの出現は、世界中の風景を一変させました。日本国内においては、１月に初めて感染が確認されて以来、本市を含む日本全国にも感染が拡大し、外出や営業の自粛、学校園の臨時休業等により、地域経済や住民生活、子どもたちの教育環境などに甚大な影響が生じました。

新型コロナウイルス感染症は、未曽有の感染症ではありますが、人類が経験した過去の歴史に学びつつ進化するテクノロジーを取り入れながら、新たな生活様式とともに、感染拡大防止及び社会経済活動の維持を両立し、現在進行形の with コロナに加えて、ポスト・コロナを見据えた取り組みを考えていく必要があります。

Ⅲ ビジョンの位置づけ

１． 市の計画

本市は、長期的なまちづくりの方向性を示した「神戸市総合基本計画（新・神戸市基本構想）」（1993～2025）、「第５次神戸市基本計画（神戸づくりの指針）」（2011～2025）を実現するため、全市的な５か年の実行計画「神戸 2020 ビジョン」（2016～2020）を策定しました。急激な人口減少や少子高齢化などの諸問題を克服するため、「若者に選ばれるまち＋誰もが活躍するまち」をテーマに設定し、若者をターゲットの中心として掲げるとともに、高齢者や障害者、外国人の方々など、誰もが安心して暮らし、活躍できるまちを目指すことを明確にしています。

また都心三宮や駅前空間の再整備計画が本格的に始動する動きに合わせて、神戸の中心地に新たな文化芸術創造拠点が整備されます。令和２（2020）年度には、新たな 5 か年計画「神戸 2025 ビジョン」の策定を予定しています。

２． これまでの取り組み

本市では震災 10 年を機に、まちの魅力を再度見つめ直し、文化を活かしてこれからの神戸をどのように創っていくのかを、市民とともに考える基本理念として、平成 16（2004）年に「神戸文化創生都市宣言」を行いました。これは文化の担い手の主役は、市民であるという認識のもと、芸術家等の自主性の尊重を前提として、〝神戸らしさ〟を活かしながら、地域文化を育て、市民生活に愉しみと潤いを与えつつ、人が集まり、魅力あふれる文化のまちを実現していくことを宣言したものです。

この宣言の考え方を反映する形で、平成 17 年（2005）度には、2010 年度（平成 22 年度）を目標年次とする全市の中期計画「神戸 2010 ビジョン」のアクションプランの一つとして、「文化創生都市推進プラン」を策定し、平成 18～22 年度にかけて神戸ビエンナーレをはじめとする様々な事業を展開してきました。

さらに平成 23～28 年度は、前述の全市中期計画「神戸 2015 ビジョン」、平成 28 年度～令和２年度は「神戸 2020 ビジョン」の実行計画の一つとして、具体的な事業展開を進めています。

神戸ビエンナーレ

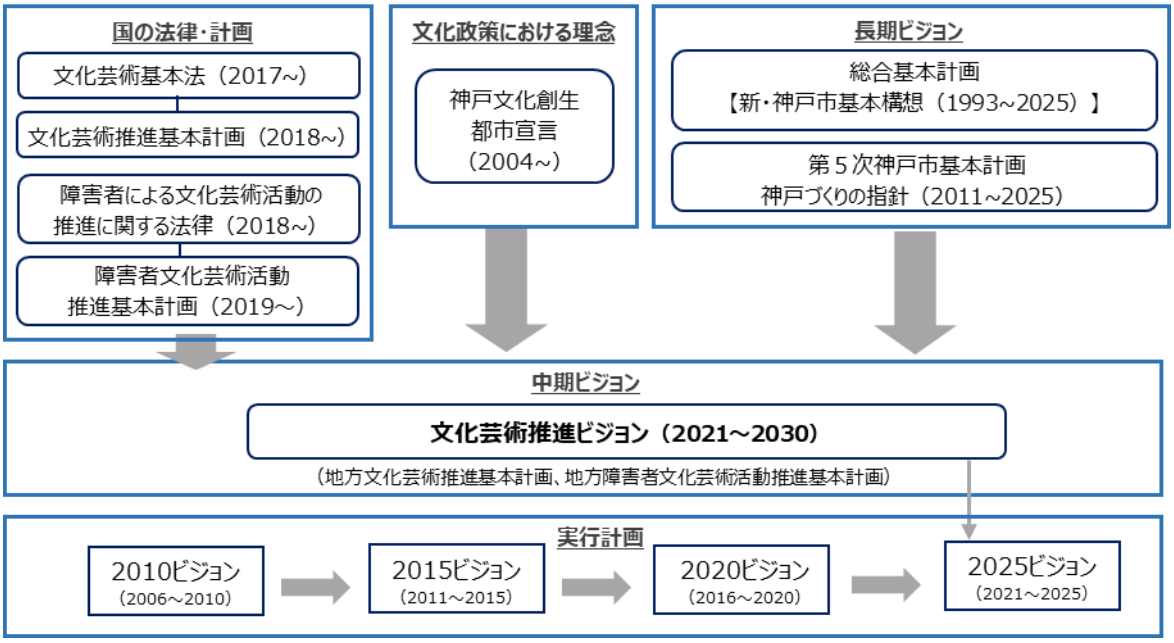
フルート大人数アンサンブル

３．ビジョンの位置づけ

「神戸市文化芸術推進ビジョン」は、具体的な事業計画ではなく、全市的な長期ビジョンの趣旨や方向性を踏まえ、本市の文化芸術施策の目指す姿や基本的な方向性を示す指針です。

令和２（2020）年度に策定する「神戸 2025 ビジョン」には本ビジョンの内容を反映し、全市的な整合性を図るとともに、具体的な取り組みを推進していきます。

また本ビジョンは、「文化芸術基本法」第７条の２及び「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」第８条において、国が策定を地方公共団体の努力義務として規定する「地方文化芸術推進基本計画」「地方障害者文化芸術活動推進基本的計画」に位置付けます。



４．ビジョンの期間

2021 年度（令和３年度）から 2030 年度（令和 12 年度）までの 10 年間とし、概ね５年程度で中間見直しを行います。

Ⅳ 基本方針

将来像１ 暮らしを彩る

「芸術」と言われると敷居が高くて近寄りがたかったり、できれば近寄りたくなかったりと・・。普段の暮らしからは遠ざけたくなってしまうというのが大方の本音ではないでしょうか。

風光明媚で海と山を有し、港町として発展してきた神戸は「芸術」といういかめしい響きよりも、暮らしを楽しむ「クオリティ・オブ・ライフ」を実現させるための「アート」とは何かを考えるのがふさわしいのかもしれません。

文化は生活に寄り添うもの、そんな想いのもと、暮らしの中に「アート」が自然に溶け込み、私たちの日常生活が豊かに彩られている、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）質の高い文化芸術から誰もが気軽に触れられる文化芸術まで、ホールや劇場だけでなく様々な場所で楽しめる機会を創出します。

（２）年齢や障がいの有無、経済的状況に関わらず、子どもから大人まで、市民一人ひとりが生涯にわたって文化芸術に触れ、親しみ、学び続けられる環境づくりを進めます。

（３）これまでのメディアのみならず、自らも発信拠点として、多様なネットワーク、ICT 等を駆使した動画を含むあらゆる表現による文化芸術情報の発信力を強化します。

将来像を具現化するアイデア

- ストリートピアノの展開のような、まちなかで絵を描いたり演奏ができる文化芸術に親しめる環境の整備
- 都心を中心とした上質なサウンドスケープ・ライブパフォーマンス空間の整備
- 神戸産の食材を用いた飲食やステージ提供などまちなかの公開空地の活用
- ホールや博物館・美術館・図書館と各区文化センターなどの連携による身近な文化芸術鑑賞環境の整備
- 神戸の文化芸術シーンの発信拠点となるスタジオの整備による番組の制作及び訴求したい層に向けた的確な配信
- 「with コロナ」「ポスト・コロナ」時代に見合った、あらゆる場所で視聴できるオンライン配信と劇場でのライブ観覧の双方を可能とする配信・課金システムの整備

将来像２　次世代を育てる

アーティストやクリエイター。どこか遠い存在に思っていませんか？
六甲山からの夜景が綺麗に撮れたので投稿してみよう、お気に入りの本のレビューを載せてみよう。街角のストリートピアノを弾いてみよう。インターネットやＳＮＳを通じて全世界の誰とでも繋がることのできる今、日常の何気ない行為を通して、誰でも文化芸術の担い手・受け手になることができます。
小さな頃からアートに親しむことで、何か新しいことにチャレンジしたくなる、活動に没頭したくなる、そのような熱意のある若者たちの主体的な活動をまち全体が応援し、チャレンジ精神に満ちた熱い人や尖った人がどんどん集まってくる、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）子どもの頃からホンモノの文化芸術に触れる機会を増やし、次世代の文化芸術の担い手や支え手を育てます。
（２）若手アーティストやクリエイターが神戸で活動に没頭し、定住できる安定した創造環境を整備します。
（３）世界に神戸の文化芸術を発信できる若手アーティストやクリエイターの活動を支援します。

将来像を具現化するアイデア

- 子ども達に伝統文化から音楽まで多様な文化芸術を体験として伝えるためのアウトリーチの充実
- 身近な環境で多様な活字文化に触れることのできる子どものための図書館の整備
- 文化芸術がプロダクトデザインやスタートアップ等と結びつく仕組みづくり
- 遊休施設や地域特性に応じたアーティスト・イン・レジデンスの整備
- 若手アーティスト・クリエイターを対象とした事業コンペの実施・支援
- 世界的な活躍が期待される神戸出身の若手アーティストの顕彰・支援

将来像３　変化を楽しむ

神戸の良いところは、海・山・街、そして人。古くは平清盛の時代から、海を越えて入ってきた「ヒト・モノ・コト」を寛容に受け入れ、いろんなライフスタイルとして取り入れてきました。

これから５Ｇやキャッシュレス、自動運転や人工知能などテクノロジーの進化により、私たちの生活は大きく変わっていくでしょう。また、新型コロナウイルスの影響により、従来のやり方が通用しなくなっている場面も多々あります。しかし、恐れることはありません。神戸には変化を恐れず新しいことにチャレンジし、自分のものとするチャレンジ精神、「進取の気風」が受け継がれています。

大きなピンチをチャンスと捉え、変化を楽しむ人々の想いが、また新たな文化を創り出す、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）文化芸術の力をまちづくりの原動力とするため、経済、教育、福祉、観光、国際交流など他の分野との積極的な連携を図ります。

（２）新しいことにチャレンジしやすい仕組みと多様性を受け入れる環境をつくります。

（３）新神戸文化ホールなど、新たな価値を創造する文化芸術創造発信拠点を整備し、活用していきます。

将来像を具現化するアイデア

- 様々な分野の課題解決や強みの拡充のために文化芸術が連携できる仕組みづくり
- 駅前リノベーション等の整備事業と連携した、ポイントとなる場所でのパフォーマンス空間の整備
- 博物館等がより市民に開かれた場所であるための、新たな施設活用方法の検討およびデジタルテクノロジー導入による現代化
- 劇場映像技術の普及に貢献する「ダンス×映像」のコラボレーションパフォーマンスや、新たな映像表現を育むコンペティション等の実施
- 感染症予防対策（換気機能、非接触型入場システムなど）やユニバーサルデザインに配慮した最新技術を導入した劇場空間の整備
- デジタルを中心とした技術革新に柔軟に対応できる劇場空間の整備
- 神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団などプロの楽団の変革。また楽団を活用したシティプロモーションの推進や神戸ブランドの向上

将来像４	自然を活かす

山が緑とすれば、海は青、神戸ビーフは赤。有馬温泉は金泉・銀泉。モノ・コトに「色・個性」があるように、神戸には、海・山・温泉・酒蔵・茅葺民家の農村部、世界と神戸港など、色とりどりの個性にあふれた地域ごとの歴史や魅力が満載です。

温暖な気候に豊かな自然と便利な都市機能。暮らしてよし、観光してよし、１日訪れただけでは伝えきれない神戸の魅力をもっとたくさんの人に知ってほしい。

技術革新や変化があろうとも自然や伝統文化を受け継ぎ、with コロナ時代に都会の密を避けた新しい働き方や暮らし方が注目される中、豊かな資源を活かしてまちの魅力に磨きをかけ、人に選ばれる、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）豊かな自然や街中の豊富な文化資源を活かし、エリアごとに異なる地域の魅力・個性に磨きをかけます。

（２）「地域の資源×アート」による地域のブランディングを図り、新しい神戸のイメージを醸成します。

（３）神戸の歴史を物語る文化財や伝統文化、郷土芸能の保存・継承・活用を進めます。

将来像を具現化するアイデア

- 市内をエリアごとにディレクションするアートディレクターの導入
- 豊かな自然とアートの調和による六甲山のブランディングの推進
- 暮らしの魅力を再認識するための、「六甲山」や「旧居留地」、「パン」など神戸の特徴を題材とした物語制作コンテストの実施
- 茅葺古民家に滞在し、日本の伝統文化・芸能等の活動を経験できるような積極的な文化面での高付加価値化の展開
- 古くから地域で守られてきた歴史遺産の掘り起こしと積極的な発信
- 文化財や伝統文化、郷土芸能などを市民全体の財産として支える基盤づくり
- インバウンドに頼りすぎない内需を喚起するエコシステムの構築

将来像５	豊かに繋がる

「次の休日は美術館に行こう」「あそこでやっているストリートライブ、ちょっと聴いてみようかな」そんな何気ない行動が実はアーティストやクリエイターを支えています。

どんなに小さくてもいい、みんなで知恵や時間やお金、できることを出し合って役割分担をすることで、誰かの想いが実現されるとともに、それぞれの居場所が生まれます。

市民・企業・アーティスト・行政等それぞれが「自分にできること」で社会が豊かに繋がる、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）市民、企業、芸術家、文化団体、学校、行政等が緩やかに繋がるネットワークを形成します。

（２）各主体それぞれが、強みを生かし「自分にできること」で文化芸術活動を下支えするという意識を醸成し、アーティストやクリエイターの活動基盤づくりを進めます。

（３）文化芸術をコミュニケーションツールとして、年齢・性別・障がいの有無・国籍などの違いを超えた交流が生まれる機会を創出します。

将来像を具現化するアイデア

- アーツカウンシルの研究とともに、アーティストと市民・企業が交わり事業実現に繋げるアートプラットフォームの場づくり
- アートと社会（市民・地域・産業）を繋ぐ人材の発掘・育成
- 高校・大学など教育機関の横の連携の強化
- 神戸市独自のアート・クラウドファンディングの立ち上げやふるさと納税を融合させた新たな資金獲得の仕組みの開発
- 地元経済界が神戸の文化芸術を支える仕組みづくり（神戸文化マザーポートクラブ、ネーミングライツ、公演チケット等の購入による地元アーティストの支援等）
- 寄付文化の醸成につなげるため、募金への協力などで誰かを応援する幼少期からの取り組み
- コロナ禍のような非常時においても文化芸術活動を維持・継続するための手法や知識、情報を共有できる仕組みづくり